

岐阜県産業技術総合センター



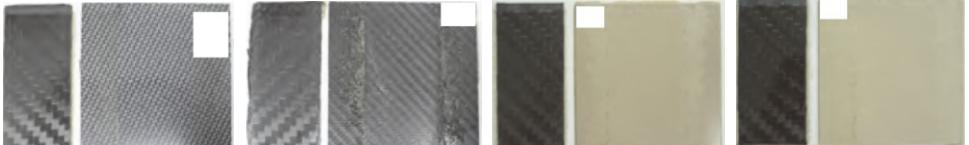
離型性能を有する治工具（カウルプレート）

熱可塑性 CFRP、熱可塑性樹脂の離型性能評価

技術分野分類 5903：複合材料・表界面工学

技術キーワード 機能性複合材料

産業分類 E-18：プラスチック製品製造業

内 容	概要	航空機部品に使用される熱硬化性 CFRP のオートクレーブ成形時には、表仕上げなどの理由からカウルプレートと呼ばれる治工具（当て板）が使用されており、離型性能が求められている。このため、カウルプレートの候補材料として熱可塑性 CFRP 及び熱可塑性樹脂板を使用し、熱硬化性プリプレグをオートクレーブ成形後、離型性能を評価した。			
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	従来の治工具は、オートクレーブ成形前に手作業で離型剤を毎回に塗布し、乾燥作業が必要であるが、熱可塑性 CFRP 及び熱可塑性樹脂板は離型性が高く、離型剤の塗布及び乾燥作業を必要としない。また、DLC 膜に比べ耐久性が良く、製造コストが安価である。			
	本技術の有用性	離型剤塗布作業、乾燥作業が不要となる。			
関連情報 (図・表・写真等)		 熱可塑性 CFRP 热可塑性 CFRP 热可塑性樹脂版 热可塑性樹脂版 PEEK PA66 PEEK PPS 離型後の治工具ならびに成形品の表面はすべて滑らかであった。			
適用可能製品		熱硬化性 CFRP のオートクレーブ成形におけるカウルプレート			
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	西垣康広 次世代技術部 道家康雄 技術連携部門			
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	岐阜県産業技術総合センター 0575-22-0147 / 0575-24-6976 soudan@gitec.rd.pref.gifu.jp			

■知的財産

無

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2019年5月1日